



第49回地球大学アドバンス 2012.2.20 (月)

[コミュニティ・セキュリティの再構築] シリーズ⑨

原発との共生—福島事故の真実とこれから考えるべきこと

2月の地球大学アドバンスでは、福島原発の事故発生直後から官邸に入り、菅総理の原子力専門アドバイザーとして事故収束のために5か月間苦闘された田坂広志氏をお招きして、原発事故直後の緊迫したやりとりの真実とともに、現在の福島原発の状況、そして未来に向けて私たちがいま本当に考えるべきことをお話しいただきます。

ゲスト

田坂 広志 氏

ソフィアバンク代表
元内閣官房参与(原発問題担当)



企画・司会

竹村 真一

京都造形芸術大学 教授 Earth Literacy Program 代表
エコツェリア・コンテンツプロデューサー

田坂氏が昨年10月14日に日本記者クラブにおいて行った講演「福島原発事故が開けたパンドラの箱——野田政権が答えるべき国民の7つの疑問」は、公開1週間で視聴者が4万人を超え、その内容をさらに拡充した『官邸から見た原発事故の真実 —これから始まる真の危機』をこの1月に上梓されたばかり。この新著において、事故直後に最悪の場合「首都圏三千万人の避難」という事態も起こり得たことを率直に語っておられます。また「安全を語ることの自己催眠」「原発の安全性とは原子炉の安全性のことだけではない」と核心をついた数々の提言をされています。

仮に世論と政府の政策が「脱原発」の方向に進んだとしても、私たちは簡単に原発を卒業できるわけではない。政府の事故収束宣言とは裏腹に、福島原発の現状は収束にはほど遠く、高レベル放射性廃棄物の処理も含めこれからが正念場です。他の約50基の原発についても再稼働の基準や期間、進まない核燃料サイクル、そしていずれにしても廃炉と使用済核燃料管理の長い道のりがあります。

また国内の原発以外にも、中国や韓国で今後増設される原発のリスク管理は即、日本の国家的安全保障問題であり、その的確な管理と長期的な「脱原発」のためにも原発関連の技術水準の維持が不可欠です。

福島事故からまもなく1年、あらためて原発や放射能に関するリテラシーを国民的なレベルで高めてゆくために、特に放射性廃棄物処理問題の専門家として学位をとられた田坂氏にお話をじっくり伺います。

開催概要

日時：2012年2月20日(月曜日)

18:00 受付開始 / 18:30 開演 / 20:30 終了

企画・司会：竹村真一

Earth Literacy Program 代表
エコツェリア・コンテンツプロデューサー
地球大学アドバンス 総合企画・コーディネーター
京都造形芸術大学教授

会場：新丸ビル10階「エコツェリア」

地図：<http://ecozeria.jp/access.htm>

定員：50名(先着順：定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法：事前登録が必要です 以下のURLからお申し込みください
<http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費：2000円

ただし、エコツェリア会員企業に所属の方は無料です
(照会いたしますので、名刺または社員証をお持ちください)

地球大学アドバンスとは？

竹村真一がモデレートする、地球環境に関するさまざまな問題や解決法を議論しながら、21世紀の新たな地球観を提示するセミナーです。環境・資源・生物多様性・まちづくりなど、さまざま分野の第一線で活躍する研究者や実務家をゲストに招き、毎回、2時間にわたって発表と参加者のみなさまも交えた討議を行っています。2007年から毎月一回、新丸ビル10階のエコツエリアで開催されており、今年度までに40回を超えるセミナーが開催されています。

2011年度[コミュニティ・セキュリティの再構築]シリーズとは？

地球大学アドバンスは年度毎にテーマを設定しており、今年度は[コミュニティ・セキュリティの再構築]がテーマです。

このテーマは、3.11東日本大震災が露わにした、現代社会の潜在的な脆弱性とリスクを明らかにしながら、日本社会、特に私たちが住んでいる東京の自己変革の方向性を討議するために設定しました。扱う内容は、起こりうる災害の規模と対策、ポスト原発時代のエネルギー安全保障、帰宅・通勤困難者問題、減災情報システム、都心部のタウンマネジメントとコミュニティ・セキュリティデザインなどです。また、地震や津波に対する防災・減災だけではなく、今後の気候変動や資源制約への適応力も備えた“変動に強い都市と国家を再構築する”という広い視点も、このテーマに含まれています。

過去の地球大学アドバンス[コミュニティ・セキュリティの再構築]シリーズのタイトルとゲスト

詳細はWEB [<http://www.ecozzeria.jp/earth/>] をご覧ください。

第41回 2011.6.30(木)

2011年度基調講演“3.11から未来へ”

基調講演：竹村 真一

第42回 2011.7.25(月)

首都圏大震災— 予防減災への課題

ゲスト：高嶋 哲夫氏(作家、『M8』『TSUNAMI』『東京大洪水』『巨大地震の日』(全て集英社)など執筆)

第43回 2011.8.22(月)

“3.11”後のエネルギー政策をめぐって

ゲスト：植田 和弘氏(京都大学大学院経済学研究科・大学院地球環境学教授)

第44回 2011.9.26(月)

企業の災害対応能力とBCP(事業継続計画)

ゲスト：山村 武彦氏(防災・危機管理アドバイザー 防災システム研究所所長)

第45回 2011.10.24(月)

日本経済再生計画— 震災とデフレを超えて

ゲスト：藻谷 浩介氏(日本政策投資銀行 参与 『デフレの正体』著者)

第46回 2011.11.28(月)

待ったなし!食糧安全保障—“食糧争奪”の現在

ゲスト：柴田 明夫氏(資源・食糧問題研究所 代表 『食糧争奪』著者)

第47回 2011.12.19(月)

東北の食と農—21世紀型の生命地域産業の創生にむけて

ゲスト：藤田和芳氏(大地を守る会 会長), 楠本修二郎氏(カフェ・カンパニー(株) 代表), 古田秘馬氏(六本木農園 代表)

第48回 2012.1.23(月)

感染症と文明—共生への道

ゲスト：山本太郎氏(長崎大学医学部・熱帯医学研究所教授)

地球大学講義録 発売中!

竹村 真一+丸の内地球環境倶楽部
日本経済新聞出版社 刊
ISBN: 978-4532167967

石油にも原発にも依存しない21世紀のエネルギー安全保障をどうデザインするか? 洪水や津波、海面上昇…沿岸の低い土地に大都市が集中する日本の水害リスクにどう対処するか? 3人に1人が高齢者となる時代、交通弱者や災害弱者を増やさない都市と社会のあり方とは? エネルギー、気候変動から都市災害、水と食、生物多様性まで、第一線の専門家・実務家をゲストに行われた、地球大学の講義ライブを一冊に。

